

衆院選模擬投票結果特集 27号

2005年9月26日 芝浦工大柏中学高等学校社会科

～ 中一 82% 中二 87% 中三 85% 高一 71% 高二 59% 高三 56% ～
投票率 70.5%、自民 1 位 39%

議院選挙の投票日9月11日の前、中学は8日、高校9日、昼休みと放課後に生徒会役員や高校選挙管理委員が未成年選挙の模擬投票を生徒昇降口で受け付けた。中学には朝日新聞、高校にはフジテレビが撮影に入った。当日朝、各生徒に本人確認と投票用紙が配付され、受付で確認しながら投票が行われた。今年は中学が全学年参加、投票率は見出しの通り、過去4回の中で最高の投票率を記録。以前は高3が30%台だったが、今年は昼から放課まで絶え間なく投票に訪れて高二と変わらない率となった。

投票者確認のアンケートを読むと、郵政民営化と政権選択について、マニフェストや社会科通信の政策対比表を見てしっかり考えて選んだ様子が分かる。「各党のマニフェストを読んで、良いと思うものの数が多いものにした」(高一女子)「この選挙を通して初めてどの代表がどういうことをしたいかがはっきり分かった。私がやってほしいことをしそうな人がいたので、投票してよかった。」(高二女子)「どの党にも言えるが、他党の批判がほとんどだ。その中で自分達が何をするか

を最も主張している党に投票した」(高三男子)「社会科通信を見て決めたが、実際の公約が分かっていなくてちゃんと選べなかった。ふだんから政治にも耳を傾ければよかった」(高三女子)「未成年だって政治はわかる。未成年が政治に参加できないのは間違っている」(中三男子)「未成年だって国民ですからね。国民の意見を反映すべきだし、子供もちゃんと意見を持っています」(中二女子)「投票の準備は大変だったけど、いつか本物の投票をしてみたい」(中一男子)など多くの意見があった。

中学では民主 1 位 42%

本校の投票結果と、NPOライツが集計した未成年選挙全体、実際の比例区での結果(得票率のみ)を下の表にまとめた。

中学では民主党が第一党になっているのが面白い。公明党には地域性があるのだろうが、中高合計で見ると、実際の大人よりも民主党への期待がかなり高かった、というのが今回の特徴と言えるだろう。

開票結果	自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	新党日本	国民新党	新党大地
中学	33.3%	41.6%	7.4%	7.4%	5.7%	3.1%	1.2%	0.2%
高校	43.2%	34.7%	4.8%	6.8%	4.6%	3.5%	1.5%	0.8%
芝柏中高	38.8%	37.8%	6.0%	7.1%	5.1%	3.3%	1.4%	0.5%
未成年総計	36.4%	32.1%	7.6%	12.2%	8.4%	2.1%	0.4%	0.7%
実際投票結果	38.2%	31.0%	13.3%	7.3%	5.5%	2.4%	1.7%	0.6%

与党で 2/3 議席を確保！

自民	民主	公明	共産	社民
296	113	31	9	7

国民	日本	諸派	無所属	合計
4	1	1	18	480

各党の獲得議席は上の表である。自民党が公示前勢力の 212 を一挙に 84 議席を増やした。300 小選挙区での自民対民主の対決結果が 219 対 52 と自民党の圧勝に終わったからで、自民得票率 47.8% (前回比+4%) に対して、議席獲得率 73% と、小選挙区制が大政党に有利になる特徴を目一杯利用できた結果である。

候補者足らずに社民へ 1 議席譲る

こうした圧勝の結果で珍現象が起きた。比例区で選出すべき候補者が足りなくなってしまったのである。政党得票率に応じて決まった議席数の候補者が、事前に提出した名簿から当選となっていく。が、東京ブロックでは多数の重複立候補者が小選挙区で勝ったため、名簿登載者がいなくなって、1 議席が社民党のものとなり保坂氏が当選。また、南関東ブロックでは、順位が 35 位の 26 才、証券会社から 8 月の公募で転身した杉村氏が当選。その奔放な言動で世間から鬨聲を浴びる結果となった。

注目された投票率は、67.5% と 12 年ぶりに 65% をこえた。期日前投票という前日までに役所などで投票できる制度を利用した者が 896 万人、有権者の 8.7% を占め、過去最高となった。

先を見通した小泉流解散が大成功

投票率が上がると自民党には不利、というのが従来の通説だった。が、今回は全く逆の結果となった。小泉首相は、郵政民営化法案が否決された場合の衆院解散を早くから決意し、準備を進めていた。7 月末には、世論調査で 300 議席が可能との予想を手にしていたと言う。ところが、マスコミや民営化反対派、民主党は解散不

可能として何の準備もしていなかった。民主党は郵政民営化への対抗案を出さず、自民党の内紛に期待をかけていた。解散直後には、マスコミから「自爆解散」との呼び名が提案されるあり様だった。国民に問えば勝てるという、小泉首相の政局観がはるかに鋭敏だったのである。

都市部の支持を集める民営化戦略

マスコミでは小泉首相の郵政民営化への執念を個人的なものと説明していた。が、今回の結果を見ると、周到な自民党改革戦略であると読める。『読売』9/13 記事に、都道府県ごとの郵便局密度順に、2003 年衆院比例選得票率との比較が示された。東京・大阪・神奈川・愛知・埼玉という郵便局の多い都府県では自民党が 7-8% も伸ばしている。逆に、北海道・岩手・秋田・青森・宮崎という郵便局の少ない道県では、自民党が得票率を落したのである。都市部の住民に潜んでいた「改革」志向を引き出し、女性候補者やクール・ビズなどの話題で明確な主張とイメージを提示して、圧勝したと言えそうだ。



340 票首相指名で再選

小泉純一郎首相は 21 日、衆参両院本会議で与党 327 人に 13 票上積みした首相指名票を獲得して第 89 代首相に指名された。皇居での任命式、認証式を経て、閣僚 17 人を全員再任した第 3 次小泉内閣を発足させた。小泉氏を支持する与党 327 人の議席は、参院で法案が否決されても衆議院で 2/3 以上で最可決すれば法案を成立できる、自民党結党以来最大の勢力である。

小泉首相は、公務員制度の改革や政府系金融機関の見直しなど「改革の総仕上げ」を強調している。惨敗した民主党は、代表に 43 才の前原誠司氏を 17 日に選出し、若手の力で党再生をかけることになった。政策競争を日本に根付かせると主張する前原代表を迎えて、これからの改革政策をめぐる論戦に期待したい。